
君を救う僕の手、僕を救う君の心

赤神 裕

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

君を救う僕の手、僕を救う君の心

【Nコード】

N9711Q

【作者名】

赤神 裕

【あらすじ】

突然君は現れた。僕の救いとなってくれた運命の人。そんな君を今度は僕が救うんだ。

僕と君との感動系恋愛ストーリー。この後どうなったかは……。読者さんの想像にお任せします。

（前書き）

どうも、赤神裕です。今回は初めての感動系恋愛ストーリーです。これを読んでジーンときてしまった方、ありがとうございます！！

それでは、初投稿となる恋愛小説。まだまだ未熟なのですが、宜しくお願いいたします。どうぞ。

運命。それは突然やってきた。僕のクラスに一人の女の子が転校してきた。名前は野坂^{のさか} 由美^{ゆみ}。彼女はちょっぴり照れ屋さんで、ちょっぴり気が強くて、そして僕はそんな君にひかれた。席は僕の右斜め後ろで、振り返ればいつもそこに君がいた。

ある日、君が僕に話しかけた。転校してきてからもう2週間もたつのだが、これが初めて君と話した日だ。昔から僕は少し引き気味で、人とコミュニケーションをとるのが一番苦手だった。だけど君はそんな僕の事を分かってくれて、優しく話しかけてくれた。とても嬉しかった。僕は色々と学校の事を教えてあげた。部活の事、勉強の事、地元の面白い話。他にも沢山たくさん教えてあげた。そうして僕と君とは仲良くなったんだよね。

とある日の朝、君はクラスにいなかった。一時限目も二時限目もお昼の時間になっても君は学校に姿を現さなかった。先生に事情を聴くと、どうやら病気にかかったらしい。僕は慌てた。君の家を先生から聞き出して家に向かった。アパートに住んでいる事が分かった。インターホンを押したけど、誰からも応答はなかった。隣から女性が出てきて僕に話しかけた。

「お隣さんね、娘さんが病気になっちゃったのよ。だからその子、入院してるわ」

どこの病院か聞こうとしたけれど当然のことながら知らなかった。僕は帰り道、君の事で頭がいっぱいになった。笑った顔、困った顔、照れた顔。あ、怒った顔は見たことなかった。そんな事を思いながらとぼとぼ歩いていた。若い女性とすれ違う。泣いていた。僕はそ

の人の顔を見て、あ。と気づく。授業参観があつたからその時に君のお母さんの顔は知っていた。僕は必死に病院の場所を聞き出した。僕は君に会いに行った。

病院について病室に案内される。そこにはやつれた顔の君がいた。変わり果てた姿に僕は我が目を疑った。君が僕に気づいて顔を伏せる。僕は君の手をそつと握ろうとすると、君はその手をはたいたね。そして一度も見せなかった、怒った顔を僕に見せた。

「もう私にかかわらないで」

「どうしたの？ 話聞くんよ」

君は泣きながら話してくれた。君は学校でいじめを受けて転校してきた。でもそこでもいじめを受けて、とうとう精神病になつてしまった。僕は話を聞き終わると君の手をも一度握ろうとした。君はまたその手をはたいた。

「もう、死にたいよ」

僕はその言葉を聞いて激怒した。なぜ僕はこんな時に怒つたんだろ。でもその時僕は“死”という言葉に敏感になつていたようだ。

「死にたいなんて簡単に言うなよ。まだ生きてるんだから、最後まであきらめんなよ。あきらめたらそこで終わりなんだよ!!」

僕の言葉に君はハッとなりうつむいて、泣きだした。

「僕がついてるから。僕が君の命綱になつてあげるから。だから。だから泣かないで」

僕は君に手を伸ばした。この子は僕と同じなんだ。僕も昔、ずっと虐められていた。だからこそ君の気持が分かる。僕と同じ経験をしている人がここにいる。僕は君を救いたい。君はとても優しくかった。その優しい心が、いつも僕を励ましてくれていた。だから、だから僕は君を救いたい。僕には君が必要なんだ。僕がその事を告げると君は謝った。

「ごめんね、ごめんね。もう、死にないなんて言わないから」

君は泣きながら僕にすがりつく。僕は包み込むように君を抱いた。

数カ月後。君は元気に学校に来た。僕はホッと胸をなでおろす。そして君はまた元気に僕を救い続けてくれている。

僕はまた君に恩返しをしなくちゃならないね。

（後書き）

いかがでしたか？ 先ほどから言っているように恋愛系は初めて
なんで、「薄い！」と感じた方は申し訳ないです。それでも、こ
こまで読んでいただきありがとうございます。今度は長編の方で
恋愛系に挑戦してみようかと思っております。まあ、まだまだ先の
話ですけど（苦笑）

評価・感想、そのたレビューも受け付けていますので、よろしくお
願いいたします。

それでは、また他の小説でお会いしましょう。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9711q/>

君を救う僕の手、僕を救う君の心

2011年6月20日20時50分発行